

2010年度までは済生会熊本病院から週2回呼吸器科外来の応援が来ていたが、2011年4月より常勤医師1名の赴任し、週1回の応援医師外来及び常勤医師週2回の外来が開始となった。外来患者数は年間1790名であり、内1／3は熊本病院からの医師の応援に支えられた数となっている。前年度と比較し外来患者数は280名の増加を認めており、図に示すように、2010年度徐々に減少傾向にあった月別外来患者数が2011年度には盛り返したようである。

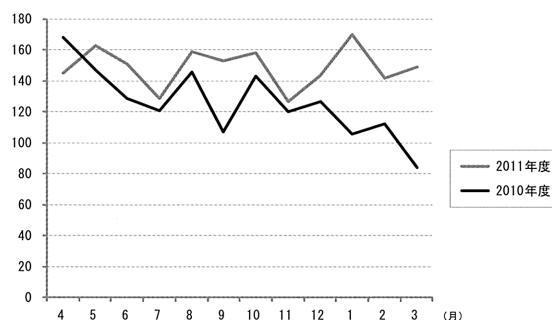
外来患者の内訳は上気道感染症が最も多く86名（17%）、次に胸部異常陰影75名（15%）となっていた。定期受診が多い疾患としては慢性閉塞性肺疾患44名（9%）、気管支喘息37名（7%）、肺炎（外来加療分）31名（6%）、肺癌31名（6%）などがあり、在宅酸素療法を行っている症例が3名、睡眠時無呼吸症候群で経鼻的持続陽圧呼吸療法を行っている症例が12名となっていた。

2010年度までは常勤医が不在であったため、呼吸器科としての入院患者数は0名であったが、2011年度は新入院患者数が145名であった。内訳は肺炎を代表とする下気道感染症が72名と約半数を占めた。肺癌は診断・加療を外来で行う症例もあり入院を要した患者数は10名と入院患者の10%に満たず、外来肺癌患者の30%程度となっていた。新入院患者の疾患内訳を図に示す。

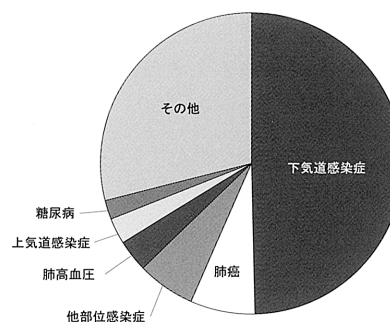
重症肺炎やARDS、CO₂ナルコーシス等で人工呼吸管理を要した患者数は6名であり、その半数はNPPVのみで離脱できている。

常勤医師赴任に伴い気管支鏡検査（経気管支肺生検等を含む）を開始したが、年間件数は30件であった。代表的な疾患としては肺癌15件、結核3件、特発性器質化肺炎3件であった。入院・外来を含め、気管支鏡検査の有無に関わらず1年間で肺結核を6名診断した。2010年までの正確な数は不明であるが、明らかに増加しているようである。今後も当院で撮影された胸部X線はすべて読影していく予定である。

外来患者数推移



新入院患者の内訳



外来患者の内訳

